

第5回 アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ The V Asian Indoor and Martial Arts Games



開催都市：トルクメニスタン国・首都アシガバート
 参加国・地域数：62 競技種目数：21競技348種目
 総合開会式：2017年9月17日 総合閉会式：2017年9月27日
 主競技場：アシガバート・オリンピック・スタジアム

トルクメニスタンの首都アシガバートで開催された第5回アジアインドア&マーシャルアーツゲームズにおいてViennese Waltzで山本武志・木嶋友美組は見事金メダルを勝ち取りました。公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)が派遣する日本代表として、オリンピックイベントに限られる五輪のマークを胸に、メインポールには日の丸が上がり、国歌君が代が演奏されました。

アジアインドア&マーシャルアーツゲームズは、トルクメニスタン初の大規模な国際スポーツ大会となる、アジアオリンピック評議会(OCA)が主催する国際総合競技大会です。2005年から3

回開催された室内スポーツ競技とチェス・囲碁などの頭脳スポーツの総合競技大会「アジアインドアゲームズ」と、2009年に初開催された格闘技の総合競技大会「アジアマーシャルアーツゲームズ」が統合された総合競技大会です。

アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ全体で、日本初の金メダル(日本全体で2つ)だったのでJOC役員から大変喜ばれたとのことでした。



メインポールに日の丸



表彰式



五輪のマークを胸に：山本武志・木嶋友美組



金メダル銀メダルの笑顔

山本武志・木嶋友美組

山本武志さんは石川県の金沢市出身、8歳でダンスを始め18歳で東京のシノダ・スポーツダンスクラブに所属。翌年、木嶋友美さんをパートナーにプロデビューしました。木嶋友美さんは東京都江戸川区出身。公益財団法人日本ボールルームダンス連盟(JBDF)に所属し、スタンダード&ラテンともにプロA級、統一全日本10ダンス選手権では2011年に初優勝以後4連覇。2016年6月の公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF)のPD部門発足後、PD会員に登録。2017年9月16日、チェコプラハで開催のWDSF-PD世界選手権スタンダード日本人初のセミファイナル入賞。2017年10月7日、フランス・マルセイユ開催のWDSF-PD世界選手権10ダンス第5位入賞。またポーランド共和国・ヴロツワフ市で開催されたIOCが後援する2017年7月の第10回ワールドゲームズ大会にも日本代表として出場するなど、海外でも活躍しています。

(JDSF広報部顧問・神宮周二)

国別メダル獲得数

Rank	NOC	金	銀	銅	合計
1	China	5	2	1	8
2	Republic of Korea	3	1	4	8
3	Japan	1	2	1	4
4	Kyrgyzstan	1	0	1	2
5	Vietnam	1	0	0	1
6	Hong Kong, China	0	5	0	5
7	Philippines	0	1	1	2
8	Macau, China	0	0	1	1
	Thailand	0	0	1	1
	Turkmenistan	0	0	1	1

～チームジャパンが勝ち取った輝かしい金・銀・銅メダル～ (遠征報告)

竹下 次郎 (JDSF選手強化部)

1. 競技日程

9月25日(月) 13時30分～17時15分 スタンダード
 9月26日(火) 13時30分～17時15分 ラテン

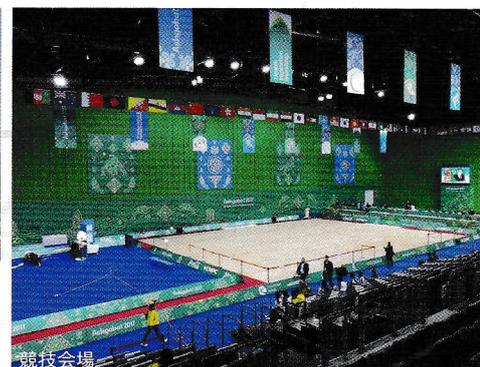
2. チームジャパン

チームリーダー：水本 泰弘
 コーチ：竹下 次郎、杉崎 加代子
 代表選手：小嶋 みなと・盛田 めぐみ、
 山本 武志・木嶋 友美、
 藤井 創太・吉川 あみ、
 久保田 弓椰・徳野 夏海

聖火



日の丸



競技会場

3. 選手村 (Ashgabat Olympic Complex)



4. 報告事項:

①未知の国トルクメニスタンへ

日本代表選手団コーチとして帯同することが決まり、開催都市Turkmenistan/Ashgabatを改めてWebsiteで調べてみた。

『中央アジア南西部に位置する永世中立国、首都はアシガバート。アフガニスタン、イラン等と国境を接し、面積は日本の1.3倍であるが、国土の85%が砂漠。9月の平均気温は、最高31.8℃最低15.8℃、降水量4mmである。言語はトルクメン語、ロシア語』。イスラムの国でのダンススポーツ競技、まさに未知の世界への期待と不安で、一気にアドレナリンが身体中を駆けめぐった。

②現地到着

約10時間のフライト後、Moscow/Domododovo国際空港に到着。これから乗り換えに10時間半程待つため、選手団の健康第一を考え、空港ラウンジで身体を休めることにした。

最終目的地Ashgabatへの所要時間は、3時間半であったが、出発が深夜2時ということもあり、搭乗後まもなく眠りに入った。

機内アナウンスで目が覚め、窓の外を見ると延々と砂漠が続く。そして突然、真っ白な都市が見えてきた。それはまさに未知との遭遇。日本を出発して約25時間後に、Ashgabat国際空港にやっと到着。ロビーには、日本オリンピック委員会の役員の方々が出迎えに、パトカー先導の大型バスで、選手村へ向かった。選手村では厳重なセキュリティ・チェック後、日本代表選手団の宿舎に案内してもらった。宿舎は、男性と女性は階が異なっていたが、他の競技団体(レスリング、フットサル等)の日本選手と同じ棟で、3~4人部屋。

全員徹夜明け状態だったが、シャワーを浴びて、すぐに食堂でランチを取ることにした。食堂は、おそらく千人は入ると思われるとても綺麗な2階建てで、料理もとても美味しく、そして現地の人々の素晴らしい「おもてなし」に感動した。

ランチ後、選手村の地図を見ながら、全員でダンススポー

ツ競技会場を下見に行った。午前11時というのに、外はすでに38度近い暑さ。灼熱の太陽がジリジリと肌をさす。シャトルバスに乗り10分程で競技会場へ到着。明日の練習会場のみ見学許可してもらい、帰りはモノレールに乗って宿舎に、モノレールから見える景色は、まるでテーマパークのようで、純白の建物、数多くの噴水、樹木、そして数百人のボランティアの人々。国を挙げてこの大会を開催していることを痛感した。

③競技(出場18カ国55組)

スタンダード5種目、ラテン5種目及びサルサの11競技種目に対して4組が各2種目計8競技種目に出場し、金1、銀2、銅1の4個のメダルの獲得し、残り4種目は4位の成績だった。

★9月25日(日) 13時30分~17時15分 スタンダード

午前中のフロア練習を終え、いよいよ午後競技開始。今大会では、1組2種目までエントリー可と規定されているため、小嶋・盛田組がTangoとQuick Step、山本・木嶋組がViennese WaltzとSlow Foxtrotに出場。そして、準決勝全員競技、決勝ソロ競技だけの言わば一発勝負。観客席では、明日の競技を控えているラテンチームも一丸となって、「みなと、めぐ!」「たけし、ともみ!」と盛大な応援を送っていた。

小嶋・盛田組は準決勝からパワー全開で踊りだし、躍動感に溢れ、多くの観衆を魅了していた。若干の力みが見えたが、無事決勝ソロ競技に進出。山本・木嶋組の落ち着いた踊りは、安心して見ることができ、予定通り決勝ソロ競技に進出。

強豪ひしめく決勝ソロ競技では、小嶋・盛田組のTangoは、惜しくも第4位であったが、得意のQuick Stepでは、見事「銀メダル」獲得!よく頑張った。

山本・木嶋組は、Viennese Waltzでは、日本代表選手団第1号の「金メダル」獲得。加えてSlow Foxtrotでは、「銀メダル」獲得という素晴らしい成績を勝ち取った。

2組とも長旅の疲れや世界の大舞台でのプレッシャーもあったが、思う存分自分たちの最高のパフォーマンスを発揮できた。

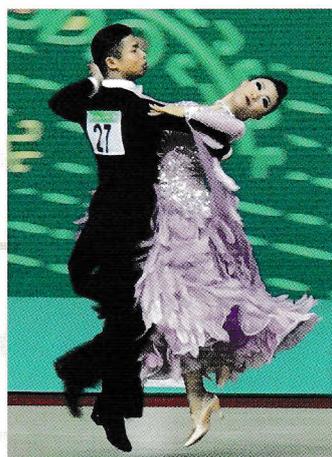
日の丸が揚がり、君が代が流れる表彰式では感極まり、思



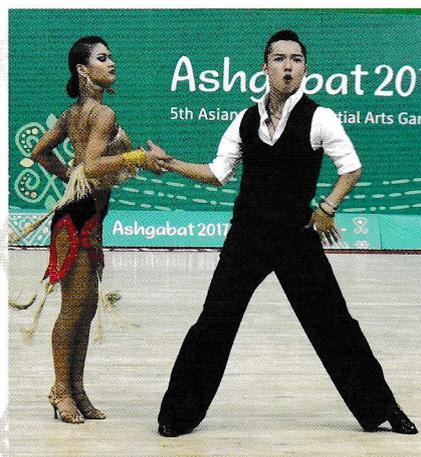
銀メダル 小嶋みなと・盛田めぐみ組



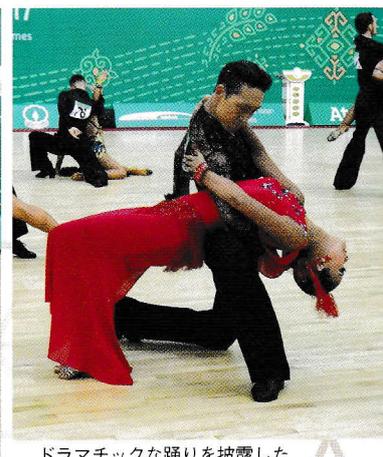
山本武志・木嶋友美組の華麗な踊り



躍動感溢れる小嶋みなと・盛田めぐみ組



若さ溢れる藤井創太・吉川あみ組



ドラマチックな踊りを披露した久保田弓椰・徳野夏海組

わず目がしらが熱くなった。世界のひのき舞台で選手と共に君が代を聴ける至福の時を過ごせたことは、素晴らしい思い出となった。

☆9月26日 13時30分～17時15分 ラテン

昨日の興奮から、ラテンチームもモチベーションが更にアップ！ 午前中の入念なりハーサル後、いよいよ久保田・徳野組がSambaとPaso Doble、藤井・吉川組がChachachaとJiveに出場。新カップルでの初挑戦の久保田・徳野組は、百戦錬磨のリーダーが落ち着いて、パートナーと常にコミュニケーションを取りながら、リードしているのがとても印象的であった。

久保田・徳野組、藤井・吉川組共に、予想通り決勝ソロ競技へ進出。強豪ひしめくラテン決勝ソロ競技では、久保田・徳野組はSambaとPaso Doble共に、惜しくも第4位であった。

藤井・吉川組のChachachaは、若さ弾ける踊りで、見事「銅メダル」獲得。Jiveは最後までフィリピンの選手と競り合い第4位となった。踊り終えた藤井創太が「今日は最高の踊りができました！」と興奮しながら発した言葉が、私の胸に強く響いた。



銅メダル 藤井創太・吉川あみ組



スタンダードと同様にラテンも強豪中国・韓国選手の踊りは、目をみはるものがあった。特に、フロアでの女性の視線、ボディのしなやかさに、自然と心が引き込まれていくのを感じた。

④閉会式参加

日本オリンピック委員会役員と一緒に閉会式に参加した。アジア各国から派遣された選手団と共に、6万人の大歓声の中、手を振り、胸の鼓動の高まりを感じながらの行進は、二度と体験できない素晴らしい感動と喜びを与えてくれた。そして、幻想的なイルミネーション、壮大な民族舞踊、すべてが心を奪われるドラマチックなシーンでもあった。

尚、この大会には日本からフットサルやレスリングなど6競技60名の選手が派遣され、金2、銀5、銅10の計17個のメダルであった。

大会を終えて……

今回の遠征は、今後の選手強化を図る上で大変貴重で有益な体験でした。アジア各地から18ヶ国もの国々が参加して、アジアのダンススポーツが、確実に広がりを見せていることを実感できたこと。また各国の代表選手にPD選手が名を連ねてきていることから、各国の新しい勢力図も把握することが出来ました。

我々日本チームも初めてPD(プレミアディビジョン)部門、GD(ゼネラルディビジョン)部門それぞれ2組ずつを選抜した編成で臨みました。代表が決定してからこの大会までの約2ヶ月間、4組のスケジュールがなかなか噛み合わず、結局一度も一緒に集まることは出来ませんでした。正直これで上手くいくのか不安もありましたが、結果は全く逆で4組は実に良くまとまってくれました。

成田に集まり出国してからは常に一緒に行動しました。渡航中も現地到着後も、食事や会場施設の下見やその他全てをとにかくチームで行動しました。その間に選手同士で日頃考えていることや悩んでいることなど、話したり相談したりしたようです。

日頃見えてないことや知らないことの発見が4組の距離や壁がなくなり、お互いが信頼できる仲間としてチームジャパンが形成されたように感じます。その最たるものが応援風景によく表れていました。これまでここまで声をからして大きな声を出して

チームリーダー 水本 泰弘 (JDSF選手強化部長)

応援したことがなかったのかもしれませんが。そんな必死の思いがあったからこそ、全組が持てる力を出し切ったことで、満員の観衆からも大きな声援を受けていました。

スタンダードもラテンは何れも大接戦の僅差の戦いでしたが、このチーム力が発揮できたからこそその結果だと思います。山本組のみならず全員が金メダルを獲得できれば良かったのですが、特に五輪のマークを胸に日の丸を背負っての競技会だった故に、全員が全力で演技が出来たことは、一人ひとりの人生に計り知れない程の貴重な体験だったと思います。今回の感動や喜びや悔しさの全ての経験が糧となって、今後の大きな飛躍につなげて欲しいと心から願っています。



チームジャパン帯同役員(左から)竹下次郎、水本泰弘、(右端)杉崎加代子とJOC派遣日本代表選手